

令和4年度 宮崎県防災会議 第2回物資拠点整備部会 議事要旨

1 会議日時

令和4年9月1日（木）10：00～11：30

2 場所

宮崎県庁防災庁舎災害対策本部会議室（オンライン併用）

3 議事

(1) 第1回物資拠点整備部会の内容確認

＜事務局から資料により説明＞

質問等なし

(2) 視察報告

＜事務局から資料により説明＞

質問等なし

(3) 基本仕様（案）

＜事務局から資料により説明＞

質疑等は以下のとおり

【部会長】

基本仕様（案）①について、事務局としては高床式が効率がよいと考えているが、御意見はないか。

【委員】

国のプッシュ型支援の受入れを想定すると、メーカーごとに大型トラックが来ることが考えられるので、高床式とすることは賛成である。補足すると、プッシュ型で来た物を全てこの施設で受け入れられるのであればいいが、屋外の駐車場を併用する場合も想定される。屋内のフォークリフトを屋外の駐車場で使いたいとなった場合に、高床式の屋内から屋外の駐車場へ降りられるスロープがあるとよい。

【部会長】

松本市の事例ではスロープがあった。参考にしながら仕様を検討したい。

【委員】

災害時に実際に運用、運営するのはどこが想定されていて、視察先はどうであったか、行政自らであったか。運営する主体となるところが使い勝手がよいことや日頃から慣れているといった意見が重要だと考えられる。施設のハードについての説明はあったが、運用につい

て確認をさせてほしい。

【事務局】

この施設は、備蓄倉庫兼広域物資輸送拠点ということで整備していこうと考えている。発災後3日間程度、備蓄物資を市町村の地域内輸送拠点に出すところまでの初動は県職員で行い、その後、国のプッシュが届く際には、県倉庫協会と災害時応援協定を締結しており、搬送については県トラック協会と協定を締結しているので、外部の知識、経験のある方々に運営いただくことを考えている。

視察先については、東松島市は平時の管理から災害時の搬送まで委託している。松本市は市の職員が配置されており、災害時は本県同様、地元の物流関係団体との協定により運用することとされていた。

【部会長】

現段階で県として運営の方針が確定しているわけではない。今後整備を進めていく中で、直営か委託か、どのような運用がよいか検討していく。

【委員】

災害直後の3日間くらいは県職員がフォークリフトを使って作業をするということであったが、本当にできるのかどうか。素人でも運用しやすい方法があるのかどうか考えた方がよい。整備と運用を一体的に考えた方がよいと思う。

【委員】

県には農政水産部と福祉保健部に防疫のための物資拠点がある。県職員がフォークリフトを使用する前提であったが、予行練習をしたところ動かせる職員は少なかった。県トラック協会では実技研修、資格試験をやっており、県職員に参加いただき昨年度は4名が資格取得した。ただ、毎年異動で人が代わる。運営、搬入・搬出のロジをどうするのか、ハードありきではなく運用や体制についても検討した上でハード整備をするのが望ましいと感じる。

【委員】

御指摘のとおり、県職員ではフォークリフトを動かせないと思う。静岡県、兵庫県では職員への研修を行っているが、毎日動かしているわけではない。基本的な操作をゆっくりであればできると聞いているが、国のプッシュが届いた時に迅速に、特に安全にできるのかという点では、当然民間の方が安全にできる。先ほどの事務局の説明のように初動だけは県職員でも一定程度できるように構えておいて、プッシュが届く頃にはできるだけ早く民間に協力をいただくことが一般的な対応だと思う。少なくともラックから出せる程度は県職員でもできるようにしておく必要がある。

【委員】

物流事業者が扱う荷物は動く物が中心で備蓄ではないということもあり、プラットホーム

が多い。プラットホームに慣れており使い勝手はいいと思うが、実は倉庫型（低床式）の方が使い勝手がよく色々なことができる。簡単にトラックから荷下ろしをやりようと思ったらプラットホームがいいが、汎用性を考えると私の印象であるが低床式の倉庫型の施設が使い勝手がいいと思う。人手ではなくパワーが必要になる場面になると、フォークリフトの数などでスピードが変わってくる。同時に実はフォークリフトはトラックよりも死亡事故のリスクが高い。安全性の担保が必要。プラットホーム型にするのか、倉庫型にするのかは、色々な事例を見て議論した方がよいと思う。

【委員】

外でフォークリフトを使用するケースが想定されるということで、高床式の場合にスロープを設けることは当然必要だと思う。その上で、外での作業を想定するのであれば、倉庫からひさしを伸ばしたような、屋外の駐車場でも雨に濡れないような設備が必要になる。プラットホーム型について基本的に賛成であるが、荷下ろしをする際の動線の確保が必要になる。今のレイアウトでは2か所で搬入、搬出を同時にやると思われるが、例えば一方通行にする、U字型、十字型にするなどがあるが、県職員が行う際に安全性を確保するのであれば、一方通行にすることを検討に入れるべきだと思う。

【部会長】

優先順位としては高床式としながら、低床式の検討も進めてまいりたい。

次に基本仕様案②として、フォークリフトによる作業スペースを確保した上で、ラックを設置したいということについて御意見をいただきたい。

【委員】

29 ページにある移動式ラックは、ラックの外側からしか搬入、搬出ができないのか、間に入って作業をすることもできるのか。

【事務局】

ラックとラックの間にフォークリフトが入って作業する。

【委員】

ラックの間にはレールが敷かれるというイメージか。敷かれる場合はその上をハンドリフト、フォークリフトが通れるということか。

【事務局】

レール式で、その上をハンドリフト、フォークリフトが通れることを想定している。

【委員】

固定式ラックにパレット三段積みで初動を県職員で行うということであるが、三段目を県職員で行うのは危険性が高い。日常から作業をしている資格取得者でないと対応できない。

県職員での稼働は難しいと感じる。

【部会長】

日頃のメンテナンスを含め、外部委託か、県職員がするか、まだ確たるものがあるわけではない。東松島市の視察では、日頃のメンテナンスから搬送までを外部委託しており、佐川急便OBの方が普段の棚卸し、動作チェックをしていた。そういった所も参考にしながら、運営方法についても検討してまいりたい。

平置きなのかラックなのかということについては、平置きになるとその分面積が必要になる。県としては、ラックにして縦の空間も使いたいと考えている。

【委員】

ラック自体が倒壊すると機能しなくなる。ラックの耐震性の想定について伺いたい。固定か移動かで耐震性の違いは。

【事務局】

県内では最大震度7を想定しており、建物及びラックについては最大震度7に耐え得るものにならなければならないと考えている。委託調査の結果、移動式ラックにも耐震性を有するものがあると伺っている。

【部会長】

耐震性は重要であるのでしっかり検討していく。

【委員】

固定式ラックは備蓄としては効率がよいと思われる。物資受入れの拠点としての機能を持たせる場合、様々な物資が届くため、物資の規格が不明な場合がある。様々な状況に対応できるようなスペースがある方が、自由度が高いと感じる。プッシュ型への対応の効率性でいえば、自由度が高い方が的確に効率よくさばけると思う。災害対応の経験がある県の状況を伺うとよいと思われるが、西日本豪雨時の岡山県の事例では、初動期は平置き、後半にラックを入れていた。後半であればラックがあった方が効率がよい。初動期の運用について検討した方がよいと思う。

【部会長】

御指摘いただいた内容について、固定式ラックをメインにすえつつ、自由に使えるスペースを確保するというのを念頭に置いて検討をすすめてまいりたい。

【委員】

個人的な感覚では平置きを前提にすべきと感じる。ラックは備蓄用と考えた方がよいので、国のプッシュをラックに入れて出すというのは現実的ではない。予算の兼ね合いもあると思うが、国のプッシュは平置きを前提に考えた方がよいと思う。

【事務局】

松本市防災物資ターミナルの場合、概ね3分の2は備蓄物資の保管、3分の1は自由に使えるスペースとなっており、その分、面積が大きくなっている。本県としてもラックを基本としながらも国のプッシュに対応できるスペースを検討し、建物の規模を考えていきたい。

【委員】

問題提起という意味で、搬入、搬出の動線をどのようにするかを考えながら検討すべきと思う。松本市はどのような動線を想定しているのか、宮崎県の考え方はどうか。

【事務局】

松本市の施設は倉庫の周囲の施設も広大でトラックが行き来する十分なスペースがある。図面でいうと上下それぞれにトラックバースがあるが、搬出入の詳細については把握できていない。本県のトラックバースの位置等について決定しておらず、今後検討してまいりたい。

【委員】

トラックバースをどう付けられるかというのは土地にも制約されると考えられるが、効率性を考えると、両端に入と出が分けてあった方がよい。国プッシュは来たらすぐに市町村に出すもので保管するものではない。水を積んだトラックが来て、缶詰を積んだトラックが来て、それらを市町村ごとに積み替えて出すことになる。その時にいちいちラックに入れる時間はない。直置きして積み替えるのがよいと思う。また、想定される国のプッシュによる支援量から、さばくのに必要なスペースの算出ができると思われる。うまくさばけないとトラックに待ってもらいことになり効率が下がる。国から宮崎県に来る物資量や市町村の数、バースの制限等によってこれくらいのスペースが必要というのを算定した上で検討するとよいのではないかと思う。

【事務局】

国の南海トラフ具体計画でプッシュの量が算定できる。どのくらいトラックを手配でき、市町村にどのように配送するか、プッシュをさばくスペースをどの程度取るかというところを検討してまいりたい。

【部会長】

基本仕様案を念頭に置きつつ、本日いただいた意見も参考にさせていただきながら、検討をすすめてまいりたい。

(4) 今後の予定

<事務局から資料により説明>

質問等なし

以上